

《かま構え堀ぼりとやしきりん屋敷林》

敷地の西側に位置する、長さ 230m・幅 6m・水深 1.3m の構え堀。堀には湧水と雨水が湛えられ、江戸川まで通じている。現在は暗渠あんきょとなっているが、往時には、この船着場から小舟で江戸川へ向かい、河岸かしにて大船に乗り換えて江戸へ出たり、逆に江戸からの来客を迎えるなど高梨家私用にも使われた。

石垣こまついしは小松石の間知石けんちいし（四角錐台状の石垣用石材）で入念に仕上げられている。幕府の許可が無くては積みなかった石である。天保年間及び明治 36 年（1903）に新增築された堀や石垣の様子は、展示棟に展示中の屋敷絵図（文政 10 年（1827）・天保 6 年（1835）・大正 7 年（1918））からも、その変化を見ることが出来る。

屋敷林は、西日の差し込みや暴風などから屋敷を守るため、屋敷の西側に植林された人口林である。自給自足のため、生活上、役に立つ木を植えつけている。